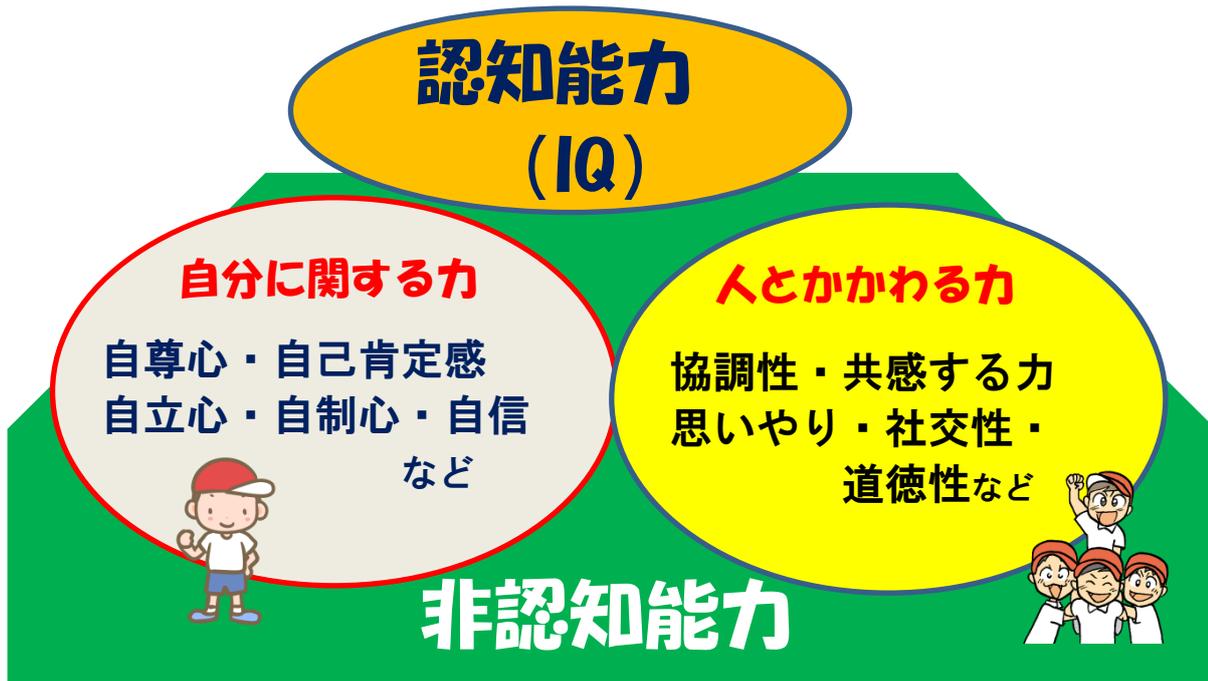


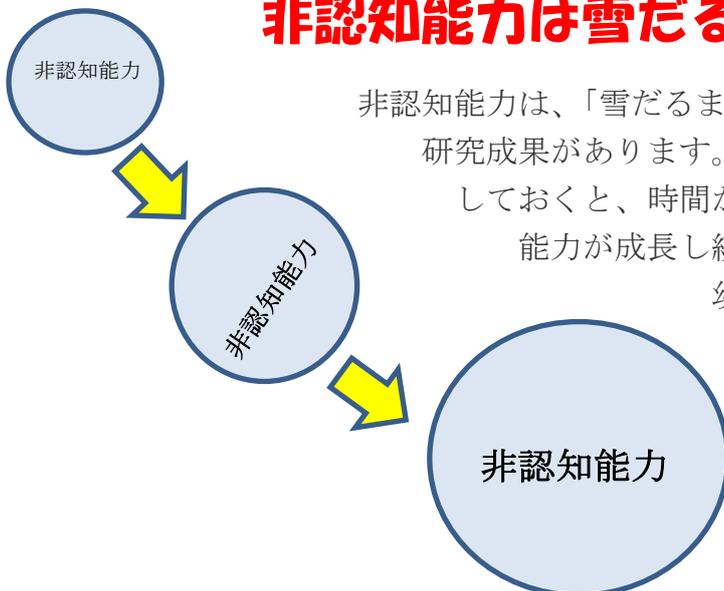
非認知能力とは？

非認知能力とは、読み書き・計算などの数値では測れない能力をさします。大きく分けて、自尊心、自己肯定感、自立心、自制心、自信などの「**自分に関する力**」。そして、一般的には、社会性と呼ばれる、協調性、共感する力、思いやり、社交性、道徳性などの「**人と関わる力**」です。



非認知能力は、「**心の土台**」のようなものです。土台がぐらつくと、小学校や中学校で、たくさんの教育を寄せられたときに、支えきれずに自分のものにできません。幼少期に、しっかりとした土台を作っていくことが大事です。

非認知能力は雪だるま式に成長していく



非認知能力は、「雪だるま式」に大きくなっていくという研究成果があります。早い時期から非認知能力を意識しておく、時間が経過するほど加速度的に高まり、能力が成長し続けるといわれています。そのため、幼少の時期から意識していきたいものなのです。

**スキルがスキル
を生む！！**



非認知能力を高めることがあらゆる分野にも有効である

非認知能力を高めることは、個人の問題だけではなく、あらゆる分野にとっても有効であると考えられます。

非認知能力は健康とも相互に関連する

セルフコントロールする力

日々の早寝・早起き
バランスのとれた食事などの
基本的な生活習慣
の積み重ね



非認知能力

依存症、パワハラ、セクハラ、いじめ、あらゆる犯罪、DV、幼児や高齢者への虐待問題などがなく社会へ！これらも、自制心などの非認知能力があれば決して起きないことであると思われま

やりぬく力

自己実現

労働・生産性の向上

自分らしい人生

誰もが自分らしく生きることが
できる温もりのある社会へ

非認知能力を高めることが、将来的に、医療費や社会福祉費などを抑制し、全体的な県財政の支出の抑制につながる可能性があり、これらは、岩手県ふるさと振興の基本目標全体にも寄与すると考えられます。

●ヘックマンのペリー就学前プロジェクト

ノーベル経済学賞を受賞したジェームズ・ヘックマン氏が1962～1967年の間、アメリカのミシガン州ペリー幼稚園で、低所得者層家庭の3～4歳の子供たちを対象にして実施したもの。その後の調査では、介入した群では犯罪歴が低く、大学進学率が高いなど、**非認知能力がその子の将来を左右する重要な要素である**ことを示しました。

●マッシュマロテスト

子ども時代の自制心と、将来の社会的成果の関連性を調査した著名な実験です。スタンフォード大学の心理学者・ウォルター・ミシェルが1960年代後半から1970年代前半にかけて実施しました。

●感情労働

感情労働とは、感情が労働内容の不可欠な要素であり、かつ適切・不適切な感情がルール化されている労働のこと。肉体や頭脳だけでなく「感情の抑制や鈍麻、緊張、忍耐などが絶対的に必要」である労働を意味する。経済学者のアーリー・ラッセル・ホックシールドが提唱しました。

●ストローク

心理学的な「**ストローク**」とは、言語・非言語全てを含めて「**存在を認める行為**」のことを指します。自分にとって心地よい「**プラスのストローク**」と自分にとって不快な「**マイナスのストローク**」とがあります。



●モンテッソーリ教育

医師であり教育家であったマリア・モンテッソーリ博士が考案した教育法。「自立して、有能で、責任感と他人への思いやりがあり、生涯学び続ける姿勢を持った人間を育てる」ことを目標とした教育方法であり、もともとは発達障害児を対象に開発されました。現在、**非認知能力の開発に有効であると注目**されています。



●プログラミング教育

2020年度から実施される新しい学習指導要領に盛り込まれ、小学校で必修化されます。コンピュータープログラムを意図通りに動かす体験を通じ、論理的な思考力を育むとともに、**幼いころからプログラムの世界に触れ、ITに強い人材を育成する狙い**があります。



●ネガティブ・ケイパビリティ

詩人ジョン・キーツが不確実なものや未解決のものを受容する能力を記述した言葉。日本語訳は定まっておらず、「消極的能力」「消極的受容力」「否定的能力」など数多くの訳語が存在します。帯木蓬生（ははきぎほうせい）氏著『ネガティブ・ケイパビリティ 答えの出ない事態に耐える力』などにより日本に広められ、**予測不可能な現代において、教育界や医療界で注目されている言葉**です。



少子化対策に必要なのは非認知能力の認識を持つこと

非認知能力とは、読み書き計算などの数値で測れる能力(認知能力)と違い、「自分の感情をコントロールする能力」です、意欲、自信、忍耐、自立、自制、協力、共感などを含みます。**人生の成功のカギとなるのが、この「非認知能力」である**ことがわかってきています。

幼少期に非認知能力を高めることが、**将来の収入や幸福度を高める**

これまでの勉強会で見えてきたこと

- 結婚の障害は**結婚資金**
(結婚したくないわけではない)
(第3回 守泉理恵氏)
- 小学生までの**スキルが多い人ほど**
「結婚したい」「子どもはほしい」と思う
(第10回 服部英二氏)
- **幼児教育を重要視**することで**経済的利益**
が得られる可能性がある
- 人生において**重要なものは「自制心」**
(第12回 大竹文雄氏)



岩手県の状況は…

- 岩手県男子が結婚しない理由の一番が「**経済的に困難**」
- **若い女性の県外への流出**が多く、岩手に残らない傾向



岩手県

非認知能力が高く、**経済的自立**をし、**心身ともに余裕のある人間**が増えれば、**家庭を持ち子どもを育て、岩手県の人口の「自然増」「社会増」が期待できる**可能性があります。

